

## 普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター

実施月日：令和6年2月2日

実施場所：登米合同庁舎 501 会議室

### 1 検討内容

No	検討項目
1	プロ課題：加工用ばれいしょ栽培技術の向上について
2	令和6年度普及指導計画について
3	新規プロ課題：地域営農構想の実現に向けた営農体制整備について
4	新規プロ課題：加工用ばれいしょ産地の生産基盤強化に向けた体制構築支援について

### 2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	1
農業関係団体	1	民間企業	1

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロジェクト課題 加工用ばれいしょ栽培技術の向上について	4.3	<ul style="list-style-type: none"><li>加工用ばれいしょ栽培は始まったばかりで手探り状態。排水対策による収穫量の差、追肥の量や時期による品質の差、適期防除の必要性など現地調査が行われた。高品質安定生産のための課題の洗い出しとして、今後の指導方針を導き出す活動であり評価できます。</li><li>目標設定は適切であり、活動の確認・整理や実需者との連携もできている。定量的数値目標に対する実績も80%に達しており評価できます。</li><li>昨年の猛暑の中、目標に近い収量が確保できた。栽培技術面も向上しており、ほ場条件が良くなれば今後はさらに期待しています。</li><li>これまでの活動が面的な広がりを見せて拡大してきており、栽培体系の確立も進んだ。登米市における高収益作物の良い導入事例となっている。</li><li>栽培技術向上を目指し、各種データ比較や現地巡回等をタイムリーに実施し、JA・普及センター・カルビ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>加工用ばれいしょ栽培は県内でも栽培年数が少なく、これまでは、基本的な収量・品質水準の底上げ、近年の気象災害に対する対策等に重点を置いて支援してきました。当プロジェクトにより課題が明確化されつつあり、次年度からの新規課題で継続支援していきます。</li><li>今後も生産者や実需者を含む関係機関・団体等と連携しながら支援していきます。</li><li>登米ぼてと組合の活動もあるため、生産者の栽培技術は格段に向上しています。今後は、適正なほ場条件等についても支援していきます。</li><li>高収益作物の導入は農地整備地区においても推進されています。条件の合う整備地区には、関係機関等と連携しながら高収益作物候補の一つとして作付推進します。</li><li>次年度からのプロジェクト課題においても、関係機関・団体等と連携しながら、安定収量確保に向けた支援を継続し</li></ul>

		<p>一ポテト株式会社が連携して組合活動を支援することで、安定的な収量確保に繋がると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの累積データを取りまとめ、反収の多い生産者の技術进行分析して広めるなど、より具体的な内容もあると良いと思います。</li> <li>• 販路がカルビーポテト株式会社だけだと単価が決まっているため、天候リスクの高い生産者に不利な条件となるので、他の加工業者や青果市場を通した生食の販路で危険分散する検討も必要。そのためにはJAが組織力を活かして選別機を所有して欲しい。</li> </ul>	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 過年次の調査データについて活用可能か確認し、より具体的な指導資料作成を行います。</li> <li>• 生食用ばれいしょについては、一部生産者が断続的に実施しているところであり、出荷形態や収益性の確保に個別の課題がある状況です。また、登米地域のばれいしょ生産体制の整備については次年度以降の活動で検討することとしています。</li> </ul>
令和6年度普及指導計画について		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 農業・農村の全体に目配りされており、活動の展開により農業・農村地域の活力が一層高まることを期待します。</li> <li>• 地域に軸足をおきながら、経営体の育成・支援に様々な角度から取り組む計画であり評価できます。</li> <li>• 令和6年度は4つのプロジェクト課題となっており、職員の活動に期待します。</li> <li>• 登米地域の経済を支える活力ある農業の振興と持続可能な農村づくりは近々の課題であるが、課題解決に向けた4つの重点活動項目は、若者の就農促進など具体的でありその効果を期待します。</li> <li>• 普及活動を一般市民にも情報発信し、応援団を作るのも大切です。また、都市と農村の交流活動の促進を支援する計画もあり、食と農・農村の魅力を多くの国民に理解していただく活動の展開にも期待します。</li> <li>• マイスター制度、環境制御による新規就農支援は大変良い事例であったので、ベテラン農家の技術を見える化し、産地の後継者を育成する活動を期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次年度計画においても、農業・農村地域の活力向上、活性化に向けて広範な活動を実施していきます。</li> <li>• 次年度も顔の見える現地活動を中心に支援活動を実施していきます。</li> <li>• 次年度のプロジェクト課題は1課題増える形となりますが、効果的な活動となるよう努めます。</li> <li>• 重点活動項目については、プロジェクト課題ほど支援対象は特定されませんが、優先順位の高い普及活動として設定しており、関係機関・団体と連携しながら効果的な活動を行っていきます。</li> <li>• 登米市や県の関係部署等とも連携しながら情報発信や交流活動等を支援していきます。</li> <li>• マイスター制度や個別の新規就農支援については、現在の重点活動の中で実施しており、今後も継続していくこととしています。</li> </ul>
新規プロジェクト課題地域営農構想の実現に向けた営農体制整備について		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発起人会の年齢構成は60～70代であるが、事業完成は概ね10年後であり、後継者に引き継げる体制構築にしっかり取り組むとともに、長期指導に向けて引継もしっかりしていただきたい。</li> <li>• 収益性の高い農業に転換できれば、担い手の確保も先細りにはならない。地域営農体制構築、高収益作物試作、関係機関連携による担い手支援を地道にかつ着実に実施することに期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新規課題は1年間の課題設定としていますが、その活動の中で、各関係機関が自主的・継続的に活動できるよう、10年間程度のロードマップを策定・共有する計画としています。</li> <li>• 当地区の担い手法人については、農地整備の進捗に合わせた営農活動の実施が求められていることから、法人設立検討の段階から、実際の運用を想定した支援活動を行う計画です。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域営農構想の実現に向けて重要な課題となるが、目標等は適当であると評価します。</li> <li>・法人設立後の経営が心配されるため、数値的な目標や支援内容があると良いと思います。</li> <li>・集落営農の法人化では、株式会社だと役員間の従事時間や経営参加の差が亀裂を生みやすい。比較的平等な農事組合法人でも一部役員に負担が偏ってしまうことがある。設立支援の場合は、組織形態によるメリット・デメリットを具体的に協議して、本人たちに選択してもらうことが大事です。</li> <li>・法人化後の運営については、できるだけ全員参加でき、居場所のある組織づくりのため、細かいシミュレーションによる意識つけや運営ルールを支援すると良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、地域の実情に応じた課題設定や支援活動を行っていきます。</li> <li>・現状では法人形態等を見通せないので記載しておりますが、支援活動の中で検討していきます。</li> <li>・法人設立に向けた支援では、農地整備地区の担い手法人として設立当初の運営が複雑になるため、関係機関・団体等と連携しつつ、発起人会の全員が理解し、組織形態を選択できるよう丁寧な支援を行います。</li> <li>・法人の構成員となる参加者が、法人内での個々の役割をイメージできるような支援活動を行います。</li> </ul>
<p>新規プロジェクト課題 加工用ばれいしょ産地の生産基盤強化に向けた体制構築支援について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのプロジェクト課題で湿害対策、追肥、防除の必要性、収穫適期等課題の洗い出しを行ってきた。規模が拡大すれば収穫機械や出荷施設の共同利用など新たな課題も出てくる。登米市版栽培マニュアル策定など生産振興、体制構築支援にしっかりと取り組まれない。</li> <li>・前回のプロジェクトの成果を踏まえ、さらに生産者の安定生産につながるバージョンアップした新規プロジェクト課題となっています。</li> <li>・J A・市の協力体制や関係機関の連携した支援体制を整えば、もっと安定的な経営につながると思います。</li> <li>・農地集積を進める中にも盛り込んでいけたらと思います。</li> <li>・ぼてと組合の取組について登米市民にもっと知ってもらい、成功した取組みになってもらいたい。</li> <li>・販売先の問題、天候リスクや大豆作業等との競合など課題も多いと思うが、成功して所得につながっている生産者もいるので、今後の活動を期待します。</li> <li>・加工用ばれいしょ生産の中・長期計画の具体的な内容が不明ではあるが、登米地域にとって重要な取組であると評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度までのプロジェクト課題により課題が明確化されつつあり、登米市の気象条件や土壌条件等に立脚した栽培マニュアルを策定するなど、加工用ばれいしょの定着・拡大に向けて支援していきます。また、市内の生産体制構築に向けて、生産者のほか、関係機関・団体を含めて中・長期計画を策定するなど連携して支援していきます。</li> <li>・加工用ばれいしょの定着には収益性の安定化が必要であるため、安定した収量・品質が確保できるよう関係機関・団体で連携して支援していきます。</li> <li>・今後の産地形成にはJ Aや市の協力は不可欠なので、中・長期計画を策定する際には連携して支援していきます。</li> <li>・加工用ばれいしょ栽培では、効率的な農地活用が効果的なので、地域計画の検討等で支援していきます。</li> <li>・関係機関・団体や地元マスコミ等と連携して情報発信できるよう支援します。</li> <li>・所得が確保できている生産者の特徴等について、ほ場での調査や情報収集によりとりまとめ、生産者に還元していきます。</li> <li>・加工用ばれいしょ生産の中・長期計画については、生産者主体となって作成されるものですが、今後、J Aや登米市の参画のもと、登米地域の加工用ばれいしょ生産振興の指</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルビーの協力で「ご当地ポテトチップス」などの商品開発も進めてほしい。</li> <li>・昨年の結果はこれまでの活動成果の賜物。北海道を超える収量・品質を目指して進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・針となるよう組み立てていきたいと思います。</li> <li>・現在登米市でも期間限定で宮城県のご当地名物味の商品が販売されていますが、知名度向上や取扱店増加を目指すため、まずは安定生産に向けて支援します。</li> <li>・気象災害に負けないばれいしょづくり、より高い収量・品質の確保に向け支援を行っていきます。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直近の課題は地域計画だが、J Aと市の連携が共にしやすいように感じるので支援をお願いします。</li> <li>・活動報告にあたり、若い普及員の熱心な説明がとても感じ良かった。頑張っているなど感じた。ほ場にとともに立ち、また車座になって課題を語る時には頼もしい存在であるから、大いに地域のみんと接し、頑張っていたきたい。</li> <li>・プロジェクトの説明では、取組内容や目標達成状況だけでなく、参加者の意欲や交流の深まり、普及員の関わり方の工夫など、活動経過も分かるように発表するとより臨場感が伝わると思います。</li> <li>・年度ごとではなく、毎年の積み重ねが将来ビジョンにつながっているか、活動のチェックに入れていただきたい。</li> <li>・登米市の農業生産は県でも評価されているが市民にはあまり認識されていない。若手農業者に自信をもってもらえるような市全体へのPRが必要です。</li> <li>・畜産の課題等も検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域計画の策定には、各関係機関・団体の協力体制が重要であり、県も積極的に支援します。</li> <li>・現地活動は農業改良普及業務の基本であるため、これからも若手職員に限らず、積極的に現地での普及活動を展開させていきます。</li> <li>・プロジェクト課題の活動においては対象の変化を目標としているところであり、活動における普及員の工夫や対象者の変化等を整理し、わかりやすい表現で説明できるようにします。</li> <li>・年度計画の策定においては、県の上位計画とのすり合わせにより方向性を整え、進捗状況についても確認しながら策定作業を進めるようにします。</li> <li>・市やJ A、県関係部署等と連携し、市内農業者の活動に対する一般市民の認識が向上するよう情報発信していきます。</li> <li>・関係機関・団体と連携して課題整理し、具体的に課題化できるか検討します。</li> </ul>

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する